

問題の概況、原因・要因、論点等の整理（案）

4．二枚貝の減少

問題の概況		原因・要因として指摘されている事項	論点、課題
アサリ	<p><有明海> アサリの漁獲量が減少した。</p>	<p>底質がアサリの生息に適していない。 浮遊幼生期の生残率の低下 着底稚貝の生残率の低下 ナルトビエイによる食害 スナモグリによる影響（スナモグリの復活） 貧酸素水塊の影響（貧酸素が直接的な斃死要因とはならないとの報告もある） 資源管理の必要性</p>	<p>原因・要因として指摘されている事項のうち、重要と考えられるものはどれか。（場所によって異なる可能性もある。）</p> <p>貧酸素は、どの程度影響しているか。</p> <p>資源管理のあり方の検討も必要。</p>
	<p><八代海> アサリの漁獲量が減少した。</p>		

<p>タイラギ</p>	<p><有明海> タイラギの漁獲量が減少した。</p>	<p>1 長期的な資源の減少 餌料等の環境が生息に適さないものになっている。 底質の泥化（湾中央部まで拡大） 幼生の分散・回帰に対する流れの影響 過剰な漁獲圧</p> <p>2 近年の不漁（大量死（立ち枯れ斃死）） 貧酸素水塊の影響（諫早湾内においては貧酸素の発生と連動してタイラギの斃死が発生しているが、北東部漁場では大量死の発生時期と貧酸素の発生時期が一致していない。）</p> <p>3 近年の不漁 ナルトビエイ、カニ等による食害</p>	<p>原因・要因として指摘されている事項のうち、重要と考えられるものはどれか。（場所によって異なる可能性もある。） 資源管理のあり方の検討も必要。</p>
<p>その他の二枚貝</p>	<p><有明海> アゲマキの漁獲量が減少した。</p> <p>サルボウの漁獲量が減少傾向にある。</p>	<p>斃死個体からビルナウィルスが検出されているが、斃死原因としての特定は困難。</p> <p>過去の大量斃死の原因として稚貝の活力低下が指摘されたが、活力低下の理由は不明。 近年の変動要因としては赤潮、貧酸素水塊、採苗期の環境要因、食害等</p>	<p>アサリ、タイラギと異なる原因があるのか？</p>